



山本 博文さん
津山市出身。東京大学大学院修士課程修了後、同大学史料編纂所へ入所。平成13年より同大学史料編纂所教授として現在に至る。専門は日本近世史。平成4年『江戸お留守居役の日記』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。

津山固有資源の発掘と発信を継続的に

大河ドラマになる、ならないは別にしても、津山の人物や歴史的資料で話題になるようなまちづくりをしていく

昭和53年に開設された津山洋学資料館は、日本に唯一の洋学専門の資料館です。地道に学術検証をし、30年という年月に渡り、歴史と現在に至る洋学の系譜の研究を続けてこ

最後に、これからの津山へ夢のあの提言をお願いします。

中央街区はずいぶんと変わり、歴史ある町並みはもうありません。住む人の少なくなった街中ですが、旧商家を改築して住まわれている私と同世代の方もいらっしゃいます。私の住んでいる田町にも空き地が多くありますが、新地商店街を通学する中高生の流れは以前と変わらず、人も車も自転車も行き交う光景は活気があります。文化的には、音楽や華道、茶道も盛んであると思います。私も趣味で茶道を続けています。お城山では、春の「津山さくらまつり」や中秋の名月の夜の「観月と邦楽の夕べ」でお茶席をしております。衆楽園でも夏の「朝茶会」に参加しております。城東地区には洋学資料館や旧梶村邸（城東むかし町家）など、江戸時代以降の建物もあり、軒伝いの散策も楽しいものです。

発信していくことが大事

市長 山本先生は歴史にかかわる専門分野で、小野さんは「津山洋学資料館友の会」の理事として活躍されています。これまでの話の中で「歴史と文化のまちづくり」について触れられていますが、さらに、考えをお聞かせください。

山本 津山のいろいろな文化遺産についてできるだけ発信していくということが大事なことだと思います。発信とともに、出雲街道をメインにして城西区と城東地区の保存と整備を考えていただきたいと思っています。また、津山松平藩の史料は、藩のいろいろな役所の日記が網羅的に残っていて、全国的にも貴重です。しかも徳川家の親藩であるという立場にある藩の政治がどのように行われていたかは、学問的にも調べる価値があります。市の広報紙に「津山学ことはじめ」と「津山城百問録」が掲載され、今は「洋学博覧漫筆」と続いています。

読んでも面白い連載ですし、私の知らないことも多かったり、学会で話題になっていないことがきちんと書かれていたり、論文にしたら非常に面白いのではと思えるものもありました。掲載内容はすべて津山に残る史料が基になっているので、松平藩史料の研究や発掘体制ができればと思います。

歴史遺産が当時の姿を残していること自体に価値がある

市長 従来、何か新しいものをつくらなければいけないという風潮があったと思います。ところが今、何もかも満たされていて、これ以上何を求めるのかというところに来ているので、古きものがより光を放つという感じがしています。保存する

市長 小野さんがお話になった箕作阮甫など、津山には大きな活躍をした人が多いのです。このことを知らないで、あるいは忘れて今を語り、また未来を語るというのは誤りだろうと思います。山本先生には日本史近代化の中で、ふるさと津山の先人が活躍したところにスポットを当てたいです。ぜひ、お願いします。

市長 小野さんがお話になった箕作阮甫など、津山には大きな活躍をした人が多いのです。このことを知らないで、あるいは忘れて今を語り、また未来を語るというのは誤りだろうと思います。山本先生には日本史近代化の中で、ふるさと津山の先人が活躍したところにスポットを当てたいです。ぜひ、お願いします。

市長 小野さんがお話になった箕作阮甫など、津山には大きな活躍をした人が多いのです。このことを知らないで、あるいは忘れて今を語り、また未来を語るというのは誤りだろうと思います。山本先生には日本史近代化の中で、ふるさと津山の先人が活躍したところにスポットを当てたいです。ぜひ、お願いします。



▲新津山洋学資料館



小野 淳子さん
津山市在住。日本大学大学院修士課程修了。昭和59年津山洋学資料館友の会に加入し、平成9年より理事として現在に至る。小野形成外科・整形外科に勤務。「茶道裏千家淡交会津山支部」「うたごえ喫茶Wa」「鶴山を考えると」で活動中。

新館を拠点にさまざまな文化交流を

歴史遺産が当時の姿を残していること自体に価値がある

最近、城西区の皆さんから「寺町の風情を大切にしたい」「歴史や文化的な遺産を活かしたまちづくりをした

山本 実際そのとおりだと思います。特に出雲街道の通る城東地区はすばらしい町並みで、全国的に見ても屈指の景観ですね。ぜひ、保存していただきたいです。城西区にある津山藩主の森家や松平家のお墓、門など、それぞれを観光拠点・観光資源という視点で多くの人に見てもらえるような工夫をすれば、もっと観光客が増えると思います。

市長 従来、何か新しいものをつくらなければいけないという風潮があったと思います。ところが今、何もかも満たされていて、これ以上何を求めるのかというところに来ているので、古きものがより光を放つという感じがしています。保存する

市長 小野さんがお話になった箕作阮甫など、津山には大きな活躍をした人が多いのです。このことを知らないで、あるいは忘れて今を語り、また未来を語るというのは誤りだろうと思います。山本先生には日本史近代化の中で、ふるさと津山の先人が活躍したところにスポットを当てたいです。ぜひ、お願いします。